

2018年(平成30年)1月28日(日曜日)

# 祭りや環境保全に意見

四日市市 富田中 まちづくり協と交流



富田地区の課題、まちづくりの提案を発表する生徒たち＝四日市市東茂福町の富田中で

足の解消策を提案した。石黒尚<sup>（高橋）</sup>さんは、毎年「桜まつり」が開かれる十四川の清掃の必要性を訴え「住民一人一人が川をきれいにする意識を持ち、清掃運動を広げたい。桜の知名度も上がる」と期待した。

協議会は今後、生徒の発表内容とそれを受けたまちづくり施策を冊子にまとめ、学校に贈る。樋口勝典会長(七巴)は「子どもが地元を知る機会になり、大人たちにも気づきをもたらした。来年も続けたい」と話した。

町づくりに子どものアイデアを生かそうと、四日市市富田地区まちづくり協議会は二十七日、富田中学校で交流イベント「中学生が語る未来の富田」を初めて開いた。伝統の鯨船行事、地域の美化など、生徒たちがそれぞれ持論を語った。

二年生六人が発表し、地域住民七十人が耳を傾けた。金井雅子さんは、国連教育科学文化機関(ユネスコ)無形文化遺産の鳥出神社鯨船行事や、地域の石取祭について「子どもが祭りに参加しながら、長く富田に住み続けなければ伝統は守れる。まずは自分が積極的に参加して、小さい子に釘<sup>（かぎ）</sup>のたたき方を教えていきたい」と担い手不

現した。(高島碧)

協議会は地区の連合自治会や社会福祉協議会など十四団体が参加し、昨年四月に発足した。イベントは六月から学校に働き掛け、実現した。